

藤本義昭先生をしのんで

谷口 博

2008年5月24日亡くなられた。訃報に接したとき、ご子息に電話をし、事情を尋ねた。少し体の都合が悪いので医者へ行ったところ、脱水気味だから2~3日入院するようにとのことだったが、急変して帰らぬ人となりました。生前から『死亡しても誰にも知らせないように、葬儀がすんだら、この通知を送付するように』との遺言があるので、その意をくんでください、との返事であったので私は何もせずでした。「突然ですが黄泉の国に旅立つことになりました。・・・黄泉の国に参りましても生前同様、黄泉の国の植物調査を試みます。・・・生前のご厚誼に感謝しますとともに、お別れの挨拶とさせていただきます。」の文をお受け取りの方が多いいと思います。

葬儀には植物誌研究会の代表外数名が参列しました。50年余りのつきあいがあり、各地へ植物採集に出かけ、いろいろと教えてもらいました。けれど記録していないので年代だとか、場所について、詳しくは記せませんが、思い出すままに書いてみます。

藤本さんは一口に言って、信念の人という印象が強く、一度決めたことは、最後までやりとげるといふ強さがありましたね。

①若い頃、食好会という会をつくり、珍品（食べもの、酒類）、話題を持ち寄り、食べ呑み話す楽しい会がありました。同好の方もおられるでしょう。故人となられた川崎正悦先生、石川博二先生や室井綽先生、岡村はた先生外が会員でした。

②台湾の台中日本人学校勤務の3年間にずい分多くの知人を得られ、帰国後もこれらの方々と親しく交遊されていました。リンさん、ユウさん、トウさんなどは、訪日の時は自宅を宿として提供されていたのです。

③大病の奥様をつれ、年に1~2回訪台されていたが、いつも台湾は身障者に対して親切であり、公共機関や交通も行き届いた国だと感心しておられました。日常、奥さんのお世話をほんとうによくされており、私はいつも感心していたものです。それが先に亡くなられ心残りであったろうと推察します。

④台中に在職中、学校の仕事も大変だったと思いますが、そのあい間に台湾各地の植物調査に出かけられ、その時に民芸品の収集（彫刻、舟、いす、衝立など）もされたり歴史や民話も収めておられます。これらの行いも常人ではできないことだと存じます。

⑤いっしょに採集に出かけたところを下記にのべます。〔年代ははっきりしませんので羅列します〕

国内では、十和田湖周辺、酸が湯~八甲田山、岳温泉~岩木山、与那国、石垣、宮古など八重山諸島、屋

久島、奄美大島~加計呂麻島、箱根~富士山、尾鷲、大台ヶ原、八瀬大原、但馬の各地、淡路島、家島諸島など。台湾では梨山、玉山、台南、澎湖島、台中、花蓮、台東、離島のランユイ島など〔台東から20名乗りのプロペラ機で30分余り、原住民を写真におさめるため費用を請求された、川べりの木に大きな蟻の巣があり、さわると無数の蟻がとび出してびっくりした。タロイモの栽培田（主食）、豚の放し飼い、キノボリトカゲなど観察した楽しい島であった〕

*採集会に同行された方もあります。藤本さんを偲んでいただけたらと存じます。

第12回研究発表会

日時：2008年11月23日（日）10:00~18:00

場所：神戸大学発達科学部

第12回研究発表会が「高校生・私の研究発表会・兵庫県生物学会2008 研究発表会」として神戸大学サイエンスショップと共催で行われました。午前中に本会武田会長の挨拶の後、本会会員の発表などがあり、その後高校生を中心としたポスター発表がありました。

午後はサイエンスショップを代表して神戸大学大学院人間発達環境学研究科・田中成典教授の挨拶の後、県外の高校生発表、県内の高校生発表と続きました。

夕方に懇親会も行われました。参加者は約120名でした。昨年度にもまして、盛況となりました。特にポスター発表では盛んな議論となりました。

高校生・私の研究発表会および兵庫県生物学会2008 研究発表会 演題

- I. 個人発表（兵庫県生物学会会員、生物教員など）
 - ・花と昆虫の関係~なぜいろいろな花があるのか?~
神戸大学大学院人間発達環境学研究科 鈴木健司
 - ・絶滅危惧種シルビアシジミの保全に関する研究
神戸大学大学院人間発達環境学研究科 山口祥伸
 - ・ホストシフト実験から浮かび上がったテナガエビ科によるヒルミミズの捕食
神戸市立六甲アイランド高等学校 丹羽信彰
 - ・コブワレカラの低温での飼育
西宮市立西宮東高等学校 阪口正樹
 - ・姫路市福泊海岸の海岸砂丘植生の調査報告（2008）
姫路市立姫路高等学校 山本一清
 - ・徳島県の淡水魚類について
徳島県立城の内高等学校 中野晴夫